

第8回

薬について

～統合失調症の治療薬～

薬ののみごこちは ですか？

- ・薬をのみはじめて良くなったことはなんですか？

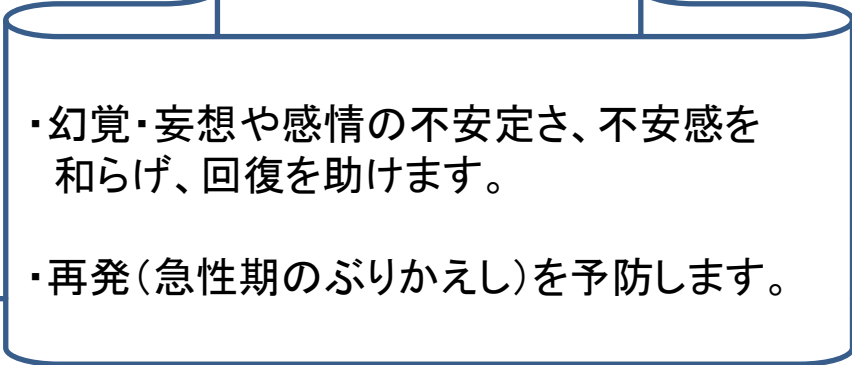
（例・眠れるようになった。幻聴が軽くなった。不安がましになった。など）

- ・薬をのみはじめてしんどいことがありますか？

（例・体重が増えた。眠い。だるい。職場でのみにくかった。など）

薬のはたらき

- 統合失調症では、脳神経の細胞と細胞の間をとりもつ「神経伝達物質」の一部の働きが、多かったり少なかったりすると症状がでてきます。
- 薬は脳神経を本来の状態に整える役割をはたします。

- 
- 幻覚・妄想や感情の不安定さ、不安感を和らげ、回復を助けます。
 - 再発（急性期のぶりかえし）を予防します。

薬の使い方

- 症状が改善して一定期間たてば薬は少しずつ減り、「維持量」(良い状態を保つための必要最少量)となります。



薬の調整はかならず主治医と相談しながら
ゆっくり行います。

薬の種類

統合失調症治療薬

(治療の中心となる薬。再発予防効果もあります)

非定型(近年開発された新しい薬)	定型(従来から使われている薬)
リスパダール(リスペリドン) ・リスパダールコンスタ※ インヴェガ (パリペリドン) ・ゼプリオン※ ルーラン (ペロスピロン) ロナセン (ブロナンセリン) ジプレキサ (オランザピン) セロクエル (クエチアピン) シクレスト (アセナピン) エビリファイ (アリピプラゾール) ・エビリファイLAI※ クロザリル (クロザピン)	セレネース・リントン ▪ ハロマンس※ ・ネオペリドール※ フルメジン ・フルデカシン※ PZC ・インプロメン コントミン・ヒルナミン など

錠剤、顆粒剤、液剤、口腔内崩壊錠、注射、持効性注射※ など、いろいろなタイプがあります。

気分安定薬
(気分の波・そううつを予防)
リーマス
デパケン
テグレトール
ラミクタール

睡眠薬 (よく眠るため)
マイスリー・アモバン
レンドルミン・リスミー
ユーロジン・ロヒプノール
など

抗不安薬 (不安なとき)
デパス・コンスタン
ワイパックス・レキソタン
セルシン など

副作用どめ
(手のふるえなど)
アキネトン
タスモリン
アーテン など

よくあるご質問

薬をやめることはできるでしょうか？

- ☆ 主に統合失調症治療薬(前ページ青枠内の薬)は、再発を予防し良い状態を保つために維持量に続けることが一般的です。
症状が改善して一定期間たてば薬を少しずつ減らします。自分に合う必要最小量が維持量です。
薬の種類や量は主治医と相談しながらゆっくりと調整します。
- ☆ 一般的な慢性疾患と同じように、薬の力も借りて身体を本来の状態に整えます。
回復した方々は「薬をのんでいても病気のことはさほど意識しません」と言われることが多いです。

再発は薬をやめてすぐではなく、数か月たってからおこることが多いです。
数年以内に再発する可能性は、環境やストレスにもよりますが、薬をのまなかったときのおおよそ7割といわれます。
規則的に服薬していれば、再発率はずっと小さくなります。

初発で改善したなど、いくつかの条件(症状や環境等)がそろっていれば、ゆっくり減らして中止する場合もあります。その際も必ず主治医と相談しながら調整します。再発には注意が必要です。

副作用と対応

薬をのむと、本来の作用とは別に不都合な反応がおこることがあります。
それを副作用といいます。

どんな薬でも(精神科に限らず)、なんらかの副作用が生じる可能性があります。
効果と副作用を天秤にかけ、効果を最大に、副作用を最小にするよう、その人にとってベストな選択を考えます。

副作用は全員にでるわけではなく、個人の体質によっても異なります。

気になることがあったら、主治医に相談しましょう。

どんなのが副作用？

全部がでるわけではありません。

頻度の少ないものもあげています

- 眠気、だるさ
- 手のふるえ、身体のこわばり、足がむずむずしてじっとしてられない、眼球が上がる
- 食欲増進、体重増加
- 口がかわく
- 便秘
- 生理不順、乳汁がでる、性機能障害（勃起、射精障害）
- 低血圧、たちくらみ
- 知覚変容発作（夕方に多く、発作的に物の見え方など知覚に異常を感じ不安感があるもの。翌朝にもちこさない。精神症状と間違われやすい。）
- 口や舌などが勝手に動く
- ジプレキサ（オランザピン）・セロクエル（クエチアピン） 定期的血糖値測定要
- クロザリル（クロザピン） 定期的血液検査要
- 動悸や胸苦しさ、身体のこわばりや意識障害を伴う発熱、薬が変わったときの発疹やかゆみはすぐに主治医に連絡を。
- 薬によって副作用のおこりかたが多少異なります。

副作用かなと思ったら

主治医に相談



効果と副作用の両面から、最も良い方法をさがします。

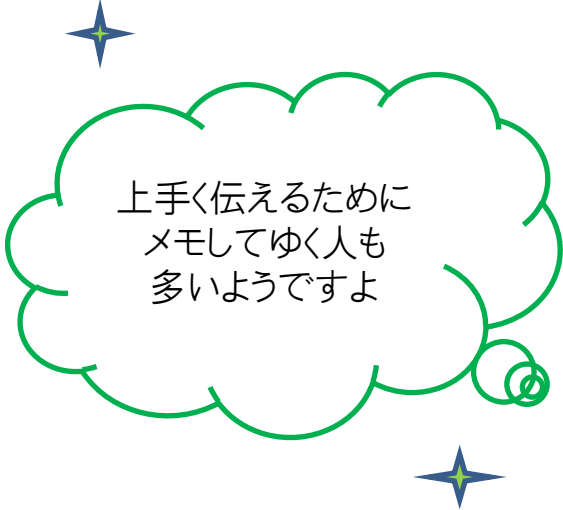
自分でできる対処もあります

副作用	対処
食欲増進・体重増加	おやつ、カロリーの高いもの、揚げ物、砂糖入りのジュース・コーヒーなどを控える。 運動やウォーキング
便秘	野菜 いも 海藻きのこ、乳製品をとる。 運動やウォーキング
口の渇き	ガムやあめ（砂糖の入っていないものが良） うがい

薬の適量をさがすために

主治医に伝え、相談しましょう

- 良くなったこと
- 困っていること、心配なこと
- 薬の感想
- 自分の希望



上手く伝えるために
メモしてゆく人も
多いようですよ

主治医の先生には「良くなった点」も伝えましょう。

- ある症状が良くなると、しばらく様子を見てから薬の減量が検討されることがあります。

薬の調整のためには
良くなった点を伝えることも大切！



薬について 当事者からのメッセージ

1)より引用

薬はその人が本来持っている状態に近づけるものと私は理解しています。例えば、うつ状態のときに抗うつ薬をのみますが、これはその人を「元気にする」のではなく、セロトニンの減少分を補って、その人を「元の状態」にもどしてくれる薬です。

つまり、精神疾患に関係する薬は、その人をその人らしく生きてゆけるようにするもの、と考えると、薬への抵抗感は少なくなるのではないか、と思えます。

ですから私は、自分らしさのために薬をのんでいますし、今ではそれが自然なことになっています。

(やまさん)



病気になってから、薬はずっとのみ続けています。服薬のおかげと聞かればおかげで、社会復帰できていると思います。薬がないと再発のことを考え不安になります。私は病気を受け入れ、一生薬をのんでいきます。

色々考えてしまっ、不安や恐怖を感じられる気持ちはよくわかります。私は薬の量を時間をかけ、主治医と相談しながら減らしていきました。今では副作用を感じません。

薬の量を減らしていくこともできるという選択もあります。

薬をのむのまないを決めるのは結局のところ自分自身なので、のむことの長所短所、のまないことの長所短所をじっくり考えてみてください。そして、主治医とよく相談してみてください。(おかやん)



服薬と睡眠は、精神疾患の場合とても大事なのではないかと思います。私は精神関係の服薬は23年ほどのんでいます。勝手にやめたときもありましたが、主治医の指示は守らないと思います。薬は長期のんで効果が安定する面もあると思いますし(中略)私は一生服薬も覚悟していますが、身を助けるものにとらえ、不安は感じていません。副作用が多く感じられるのであれば別ですが、信じてのむのも効果に作用するやも。

私は今では病気のことをポジティブに受け入れています、過程は個人差があると思います。病気だからといってマイナスにならず、生きているかぎり希望をもっていいです。(山どん)

薬について
経験を交流しましょう



第8回 参考文献

- 1) 岡本慶子: 2012年当事者による当事者のためのシンポジウム「統合失調症をもつ私からあなたへ」報告. 岡本クリニック メンタルケア室 ホームページ
<http://www.eonet.ne.jp/~okamoto-mental>, 2012
- 2) 大森哲郎: よくわかる精神科治療薬の考え方、使い方2版. 中外医学社, 東京, 2011
- 3) 佐藤光源, 丹羽真一, 井上新平編集: 統合失調症治療ガイドライン第2版. 医学書院, 東京, 2008